

会 議 録（概要）

会議の名称	灰溶融固形化施設公害防止協議会
開催日時	平成 29 年 8 月 24 日（木） 午後 3 時 30 分開会 午後 4 時 30 分閉会
場所	メルティングセンター佐渡 2 階研修室
議題	(1) 平成 28 年度における各種測定結果について (2) 平成 28 年度施設の経過報告について
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	参加者 関係集落 6 名 環境対策課 課長 鍵谷 繁樹 両津支所 支所長 清水 正人 事務局 環境対策課 課長補佐 伊藤 完一 環境対策課施設管理係 係長 谷地 喜文 環境対策課施設管理係 主事 山中 和明
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
鍵谷課長	開会の挨拶
山中主事	(1) 平成 28 年度における各種測定結果について ・別添資料の 2～6 ページにより説明する。 ・排ガス等測定結果、浴槽水質検査結果、放射性物質濃度等測定結果については、全て基準値以下である。
A 氏	・平成 28 年度の排ガス測定結果について、国基準値の 50 分の 1 の自主規制値を設定している項目がある。 ・非常に良いことだが、薬剤などに費用が掛かっているなので、費用が掛からないような国の基準値にもっていけないかと思っている。

谷地係長	・地元には良いことだが、国の基準があるのに、わざわざ費用を掛けて抑える必要はないと思っている。 ・国基準値の 50 分の 1 の自主規制値は排ガス中のダイオキシン類の基準だと思うが、この施設を建設する時に、自主規制値を設けて安全・安心な施設ということで地元の方の理解を得て建設してきた経緯がある。 ・A氏から費用が掛かるようであれば、国の基準に上げてても良いのではないかという話があったが、地元の総意として上げてても良いということになれば、県と協議をして、国の基準に上げるための手続きが必要になってくる。
A氏	・国の基準値でどのくらい削減できるのか。
谷地係長	・国の基準値にした場合、幾ら削減できるかという資料は持ち合わせていない。
B氏	・それは地元集落との話し合いの中で、地域の安全や安心を守りたいという佐渡市の気持ちが自主規制値だと思う。 ・地域からすれば、安全なら問題なく、経費については別のところで節約してもらい、安全・安心は節約しては駄目だ。 ・地域としては近くに田んぼがあり、人も住んでいる、低い基準値はありがたい。
谷地係長	・国の基準が安全ではないというわけではなく、国も安全を見込んで基準を定めている。 ・地元から国の基準でも良いという意見をいただければ、市として検討していきたい。
B氏	・経費は掛かると思うが、安全第一で自主規制値以下にしてもらいたい。 ・佐渡市は、地域のために、積極的に安全・安心を考えてくれているので、非常にありがたい。
鍵谷課長	・それについてはこの施設だけではなく、他の施設についても、住民との話し合いの中で、地域の総意であれば変えていかないといけないと思うが、いつときの思い込みでやってしまうのも難しいと考える。
谷地係長	・両津地区ではメルティングセンター佐渡を建設する前に、両津クリー

	ンセンターを建設し、その排ガス中ダイオキシン類の自主規制値が 0.1ng-TEQ/N m ³ であり、それと合わせてメルティングセンター佐渡も 0.1ng-TEQ/N m ³ の自主規制値になったと思う。
清水支所長	・特定の自主規制値のみ低くできたとしても、その他の数値が上がることもあるので、何とも言えないが全体で考えないといけない。
鍵谷課長	・データを取ってみて、基準を上げて行った時に、どのようになるか見てみないと分からない。
伊藤課長補佐	・薬剤が関係してくると思うので、薬剤を減らしてみてもシミュレーションしないと分からない。
清水支所長	・コンサルタントに今までのデータを含めて相談に乗ってもらえばいい。
C氏	・自主規制値の根拠があるはずなのでそれも確認する必要がある。
鍵谷課長	・排ガス中のダイオキシン類の自主規制値を国基準値まで上げるということについては、地域の安全・安心が第一という参加者の意見を踏まえ、現状の自主規制値でいきたい。
B氏	・10月の一酸化炭素や窒素酸化物などは5月や平成27年度から比べると非常に多いように思うが燃やすものによって違うのか。
谷地係長	・その時の灰の性状によっても違ってくると思う。
清水支所長	・その日の天候とか、その日の状況で変わってくるもので、誤差は出てくるものと認識した方が良くと思う。
B氏	・土壌のダイオキシン類については。
谷地係長	・これは地中のダイオキシン類の量で、土壌を採取する場所は一定ですが、若干の数値の変動は出てくる。
D氏	・大川地区は施設に近いから高いのか。羽二生地区は施設から少し離れている。
清水支所長	・建設前のデータは分からないが、自主規制値 1000pg-TEQ/g に対する

	9.7pg-TEQ/g であり数値としてはかなり低い。元々自然界に存在するものだと思う。
伊藤課長補佐	・ 1 pg は 1 兆分の 1 であり、かなり低い数値である。そこで数値の変動があったとしても、影響はほとんどない。例えば、近くで焚き火をただけでも数値は増えるので、そのような解釈でお願いしたい。
B 氏	・ 入浴者数が増えているようだがどれくらいか。
山中主事	・ 平成 28 年度が 4,311 人、平成 27 年度が 4,035 人となっている。
B 氏	・ 入浴施設の衛生面もしっかりとお願いしたい。
山中主事	・ 浴槽の水質検査については年 6 回実施しており、全て基準値以下である。
鍵谷課長	・ 質疑応答がいくつかあったが、以上で(1)の市の報告は了承されたものとする。
山中主事	(2) 平成 28 年度施設の経過報告について ・ 平成 28 年度の修繕箇所について、別添資料の 7 ページにより説明する。
C 氏	・ 定期補修は 3 年とか 5 年毎に行うのか。
谷地係長	・ 溶融炉は高温で溶融するので、耐火材等の交換は毎年行っている。
C 氏	・ メルティングセンター佐渡の掲示板にある数値は、過去の分もデータは残っているのか。
谷地係長	・ データは残っている。
鍵谷課長	・ 質疑応答がいくつかあったが、以上で(2)の市の報告は了承されたものとする。
E 氏	○その他 ・ 災害が起きた場合の連絡体制がしっかりと徹底されていなかった。
伊藤課長補佐	・ それを受けて、マニュアルを作り、関係集落に配布した。職員がいる

	場合、いないが電話連絡が取れる場合、電話連絡が取れない場合と 3 パターンに分けてそれぞれの対応をまとめた。 ・災害等が発生した場合、このマニュアルを参考に灰溶融固形化施設が緊急避難所になっているので、利用していただきたい。
E 氏	・職員に徹底させることが必要だ。実際の対応は市や施設にいる職員なので、その職員に徹底して欲しい。職員が知らないのでは話にならない。
伊藤課長補佐	・その点は、施設の運転委託業者の社長はじめ、受付の市の職員にもマニュアルを渡して周知している。
E 氏	・人間は忘れやすいので、定期的に 1 年に 1 回でも良いので、訓練の時などに社員で読み合わせをするなどの徹底をお願いする。
伊藤課長補佐	・定期的に、職員を通して、施設の運転委託業者にも周知するようにしたいと思う。
F 氏	・スラグについてですが、再利用があまりないということだが、今年はどうなっているか。
伊藤課長補佐	・去年は、県の佐渡地域振興局農林水産振興部農地整備課で、試しにパイプラインの埋戻材として使っていただいた。塩分があるので、金属のような製品の埋戻材には駄目だろうということで、塩ビ管の埋戻材に使用し、締りが良かったとのことであった。水に触れないところに関しては、非常に使い勝手が良いという話は聞いている。 ・年間 700 m³であり、最終処分場の中間覆土で使える量になっている。しかし、今までの蓄積量が消化できず、ストック量が 3000 m³あるので、それを何処かで使っていただけるとありがたい。 ・1 トン 1,000 円で売っている。 ・粒が小さいので、雨が降ったりすると下に潜る。
清水支所長	・県の基準で砂利の下に使えるようになっている。ただし、砂状なので施工が難しい。
伊藤課長補佐	・年間 700 m³程度で量的に中途半端である。もっと大量になれば使い道が増えるかもしれない。
F 氏	・害にはならないのか。

伊藤課長補佐	・塩分が若干あるが、溶出試験を実施し、全て基準値以内である。 ・田んぼについては、六価クロムが基準値以内だが数値が出ているので使えない。
鍵谷課長	閉会の挨拶